

平成21年度事務事業評価シート (20年度実施事業分)

事業番号		10 02 19	中期総合計画主要施策番号		1-01,1-02,2-04		担当課	部・課	林務部 信州の木振興課	
事業名		カーボンオフセットシステム構築事業 (森林づくり県民税活用事業)				内線		3273		
						E-mail		ringyo@pref.nagano.jp		
事業の概要等	事業の目的	森林づくり県民税を活用し、県民が木質バイオマスを利用してCO ₂ の削減に貢献している活動を定量的に評価する仕組みを企業等の協働で構築し、地球温暖化防止のための実践的な取組を支援するとともに、森林資源の有効活用を通じて健全な森林づくりを進める。								
	事業の必要性	[現状(事業の目的との間にどのようなギャップがあるか)] 木質バイオマス利用による社会貢献活動への理解が不十分なため、温暖化防止活動やその取組への理解と参加が進んでいない。								
		[原因(ギャップが発生している原因は何か)] CO ₂ 削減に貢献している活動を定量的に評価したり、経済的支援に繋げる仕組みがない。								
		[課題の特定(事業の実施により解決しようとする課題は何か)] 木質バイオマス利用による社会貢献度の定量評価や経済的支援を行う仕組みを構築する必要がある。								
	事業内容	・ペレットストーブ等のカーボンオフセットシステムを構築するための検討委員会の開催。 ・オフセットクレジットの仕組みやCO ₂ 排出削減量の算定式や評価方法(方法論)の確立に必要な基礎データ調査の実施。								
実施期間	H20 ~ H22		根拠法令等	長野県カーボンオフセット検討委員会設置要綱						
成果と達成状況	事業の目指す成果		達成度(期待どおり)の判定基準(H20)			達成状況		評価		
	カーボンオフセットシステムの構築により、木質バイオマス利用による地球温暖化防止、森林資源の有効活用、健全な森林育成を図る。		カーボンオフセットシステムの制度設計及び市場調査を行う。			・制度確立のための検討委員会を3回開催して、ペレットストーブと薪ストーブの評価方法の検討を行い制度設計を行った。 ・市場調査や薪ストーブ使用に伴う室内温度測定を実施し、薪ストーブを評価するための基礎資料を作成した。		a.期待以上 b.期待どおり c.やや下回る d.期待以下		
事業コスト	区 分		単位	19年度	20年度	21年度(当初)	20年度の概要			
	最終予算額 (A)		千円		1,427	1,670	国庫・県単 県単			
	決 算 額 (B)		千円		1,409		実施方法 直接・委託			
	B(H21はA)のうち一般財源		千円		0	0	歳出節別 森林づくり県民税基金 繰入金 内訳等 1,409			
	概 算 人件費	従事する職員数	人		0.10	0.10	(単位: 千円) 委託料:683 役務費:158 需要費:156			
	概算事業費 (B(H21はA)+C)		千円		2,124	2,385				
事業実績	内 容		単位	19年度	20年度	21年度(予定)	左記以外の20年度の実績			
	検討委員会の開催		回		3	4	ペレットストーブの評価方法(方法論)を定め、全国の標準とするよう環境省に提案した。			
	制度設計		式		1	1				
	制度試行		式			1				
事業の課題	区 分		判 定 ・ 説 明							
	事業のニーズの変化		増加	横ばい	減少	判定の説明	・環境省で検討している制度(J-VER制度)との整合や公的機関によりシステムを構築し評価を行うことで、木質バイオマス利用への関心が高まるため、県の関与は必要である。 ・システムを有効に活用していただくために、PR活動を実施し県民に周知する必要がある。 ・効率性を高めるため、平成20年度に制度設計したシステムを試行し検証する必要がある。			
	県の関与を見直す余地		余地なし	当面余地なし	余地あり					
	有効性を高める余地		余地なし	当面余地なし	余地あり					
	効率性を高める余地		余地なし	当面余地なし	余地あり					
	課題の総括		・平成22年度からのシステムの本格稼働に向けて、シンポジウムを開催し県民への普及・啓発活動を行い、システムへの主体的な参加を促進する必要がある。 ・本格稼働に向け、平成20年度に制度設計したシステムを試行し問題点を検証することにより、効率性を高める必要がある。							